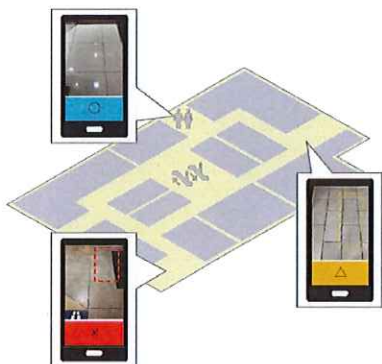


ペリエ千葉で新しい清掃スタイルがスタート！ 床面定期清掃のCBM方式による運用が始まりました

2025年10月1日より、ペリエ千葉にてAIを活用した新しい清掃方式「CBM (Condition-Based Maintenance)」の運用が始まりました。これまでのTBM (Time-Based Maintenance) では、決まったスケジュールで定期清掃を行っていましたが、今回のCBMでは、床の状態をAIがチェックし、必要な時にだけ清掃を行うスタイルに進化！ インспекターの「匠の目」による品質評価をAIがしっかり引き継ぎ、より効率的で無駄のない清掃を実現します。

運用方法はとてもスマートで、現場で定期的に床面を撮影し、AIがその画像を評価。基準を下回った場合のみ清掃を行うことで、清掃の質を保ちつつ、作業頻度の最適化を図ります。今後は、この仕組みを他の施設にも展開していく予定です。清掃の未来を切り拓くこの取り組みに、ぜひご注目ください！

Try something new!



CBMシステムによる品質評価イメージ



床面を撮影する様子



業務推進課
金井課員

新たに導入を検討している清掃ロボットの紹介

技術開発課では、さまざまな環境下での清掃ロボット活用について試験を進めています。今回は恵比寿駅ビル事業所の協力のもと導入している「RULO Biz (ルーロ・ビズ)」を紹介します。



技術開発課
折井課員



- RULO Biz / パナソニック㈱
- 幅351mm×奥行330mm×高さ99mm
- 総重量：3.2kg（本体のみ）
- 最大稼働時間：約90分（満充電・電池初期／20℃時）
- ・カーペットフロアなどの床面除塵で活躍中
- ・バッテリー残量が少なくなると自動で充電ステーションに戻り充電
- ・充電ステーションは気にならない小型サイズ
- ・1時間で約200㎡の清掃が可能
- ・稼働中は注意喚起としての音声メッセージやメロディーを流すことが可能
- ・稼働開始させたい日時の設定が可能

他の除塵タイプの清掃ロボットと比べて小型で低価格となっており、比較的清掃面積が狭いオフィスビルなどで各フロアに1台ずつ設置して使用することを想定。フロアをまたいでロボットを移動させる必要はありません。また、充電ステーションが小型なので、清掃フロアに設置することができるため、清掃日時をセットすると、自動で清掃を開始します。これらにより、人の手が必要なのは、ゴミの回収とセンサー・ブラシのメンテナンスになります。毎日の清掃を、もっとラクに、もっとスマートにしてくれる頼れる一台です！

2025年度経営計画「スタート・アクセス」にあるとおり、清掃ロボット導入台数50台をめざしています。清掃ロボット導入箇所へのフォローアップにも注力していきますので、効率的な運用に向けてともに取り組んでいきましょう。